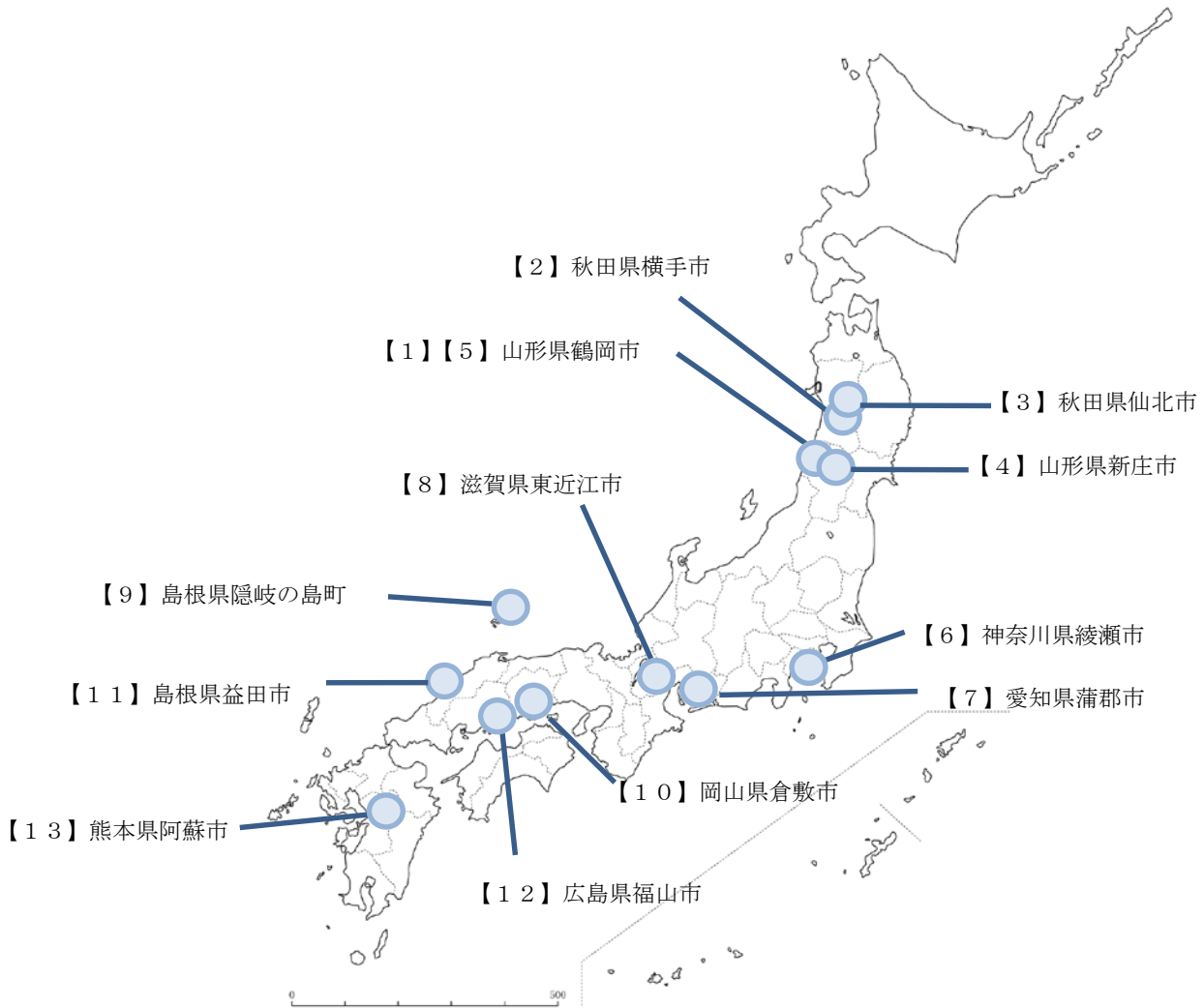


平成24年度は、地域活性化伝道師を以下の12地域に派遣した。



【1】～【5】	東北圏ブロック
【6】	首都圏ブロック
【7】	北陸圏・中部圏ブロック
【8】	近畿圏ブロック
【9】～【12】	中国圏ブロック
【13】	九州圏・沖縄県ブロック

上記の12地域に対し、以下の10名（延べ13名）の地域活性化伝道師を派遣した。
※「所属」等は平成25年3月31日現在のもの。

〈東北圏ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
1	古庄 浩	㈱古庄企画	代表取締役
2	清水 慎一	観光地域づくり プラットフォーム推進機構	会長
3,4	渡邊 賢一	(一社) 元気ジャパン	産官学民連携コンサルタント ／ソーシャル・プロデューサー
5	金丸 弘美	(有)万来社	食総合プロデューサー ／食環境ジャーナリスト

〈首都圏ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
6	藤崎 慎一	㈱地域活性プランニング	代表取締役

〈北陸圏・中部圏ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
7	藤崎 慎一	㈱地域活性プランニング	代表取締役

〈近畿圏ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
8	春日 隆司	北海道下川町	環境未来都市推進本部長

〈中国圏ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
9	中澤 さかな	道の駅/萩しーまーと	専務理事
10	北野 尚人	㈱中国博報堂	執行役員MD統括担当 兼マーケティング部長 兼プロモーション部長
11	米田 雅子	慶應義塾大学	特任教授
12	井手 修身	アイデアパートナーズ㈱	代表取締役

〈九州圏・沖縄県ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
13	米田 雅子	慶應義塾大学	特任教授

【1】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	地域産業・イノベーション・農商工連携	相談主体	・出羽商工会 ・山形県鶴岡市
派遣伝道師	古庄 浩	ブロック名	東北圏ブロック
相談内容	<p>○庄内地域において、地域の主産業である農業を活性化するためには、農産物の販路拡大が重要である。このため、実需者を庄内地域に招き、生産現場の見学や直接の意見交換を通じて、一層の販路拡大を推進していくこととしており、本取組を進めるに当たり、地域の食材に精通するとともに、実需者とのネットワークを有する古庄地域活性化伝道師を派遣いただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成24年6月28日(木) 現地視察・指導等 (同行者: 山形県、鶴岡市、出羽商工会、バイヤー) 視察・指導場所: 加藤農園、鈴木農園、安野りんご園、 【古庄伝道師の指導内容】(抜粋) ・山形県から庄内・食の親善大使に任命され、庄内の食材をPRしているが、関東ではそこそこ知名度はあるが、関西では知られていない。 ・庄内地域のきゅうり、だだちゃ豆はとてもおいしいが、他の地域に出すと、出荷してから店頭まで、農協で1日、卸売で1日、スーパーで1日と3日かかる。鮮度が課題。</p> <p>○平成24年6月29日(金) 現地視察・指導 視察・指導場所: 産直あぐり、大商金山牧場、カトちゃん畑 【古庄伝道師の指導内容】(抜粋) ・よいものには値段の分の価値がある。消費者にその価値を伝えられる物語があるかが重要。 ・商品が売れるには物語が必要。紅花茶は健康志向に合ってよい商品になる可能性がある。</p> <p>この他、各場所で生産者とバイヤーをつなぐ活動を行った。</p>		
成果	<p>○生産者とバイヤーのパイプが構築・強化された。 ○生産者にとって実需者の声を直接聞く機会は有意義であった。また、今後の生産計画に生かすことができた。 ○実需者にとっても生産現場を見ることで、作物への信頼を確かなものにした。</p>		
課題	<p>○鶴岡地域の農産物はおいしいが、知名度が低いこと。 ○収穫後の農産物の新鮮な状態を保って消費地まで届けること。 ○消費者に商品の価値が伝わるように売ること。</p>		
今後の方針	<p>○相談者から依頼があれば再度伝道師の派遣を検討。</p>		

【2】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	観光・交流／まちづくり	相談主体	秋田県横手市
派遣伝道師	清水 慎一	ブロック名	東北圏ブロック
相談内容	<p>○平成25年度におけるJRのデスティネーションキャンペーンに向けてのアプローチ方法</p> <p>○「着地型観光」の実現のための市町村の交流連携を軸とした観光振興体制構築方法</p> <p>○各種事業の効果的な実施方法、有機的な連携方法についてそれぞれ指導いただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成24年8月6日(月) 清水伝道師による指導内容</p> <p>【大きなポイントは以下の2点】</p> <p>① 足元(市内・市民)を固める</p> <p>訪れた人ががっかりするような中身にならないようにすること。史跡は現物が残っているわけではないので、これをどういった形でガイドするか、説明するかが重要。</p> <p>市民も行政職員も「後三年合戦」について学び、観光客に聞かれたとき、だれでも答えられる環境づくりをする。また、資料も分かりやすく良いものを作って、物語で人を誘導することが大切。</p> <p>⇒市民に文化を理解してもらうことにより、横手市を訪れた人への対応が変わってくる。</p> <p>⇒ガイドや、説明できる人を育てられるわかりやすい資料を作ることも大事。</p> <p>⇒歴史の史実に基づいた、わかりやすい物語を作ることで観光客を誘導する必要がある。</p> <p>⇒総合学習等で小学校で学ばせてもよい。</p> <p>② どうやって横手に観光客を誘導し、滞在時間を増やすかを考える。</p> <p>時間の過ごし方を提案すること。</p> <p>平泉から横手に来てもらった際に、「後三年合戦」関連だけで帰すのはもったいない。“2時間あるなら、3時間あるなら、半日あるなら、1日あるなら”という具体的なコースを提案し、横手の良いところを楽しんでもらうこと。また、観光客の来る場所(秋田市、角館、大曲の花火会場、宿、ホテル)にパンフレットを置くなどして、横手市まで誘導すること。</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活気のある地域では、毎週定時に観光協会等が中心となって、観光に興味のある人が集まる会を開催し、そこで様々な意見交換や、料理の検討会等を行っている。 ・ 具体的なコースを考えるときは、行政だけで作らず、市民を巻き込んだ方がよい。 ・ プレデスティネーションキャンペーンにおいては、モニターツアーの為のモニターツアーをやってはいけない(本番と違うプランをやらないこと)。モニターツアーにおいては、デスティネーションキャンペーンと同じ内容でやらないとだめ。その上で改善点を見つけ、本番に向けやっていくことが大事。 ・ 市内の商店街を充実させることも観光における環境整備のうえで重要。 <p>商店街に行きたいという観光客が増えており観光振興にもつながる。また、近くの商店街を残すことは高齢者対策にもつながる。</p> <p>・ 「横手やきそば」を目的化してはダメ。「横手やきそば」を看板にして観光客を呼び込み、他にもこんないいところがあるんだ、というのをアピールしなければならない。</p>		
成果	<p>○コンサルティング参加者や観光関係団体から、着地型観光ルートの提案を募り、現在、それを基にした観光ルートに関係各所と調整中。</p> <p>○横手市・美郷町の観光振興と地域経済の活性化を目的に、平成25年1月「横手・美郷後三年合戦活用協議会」を設立。</p>		
課題	<p>○着地型観光ルートの構築と売込み</p> <p>○地域を巻き込んだ観光客受入体制の整備</p>		
今後の方針	<p>○地元住民と観光客との交流を生み出せるよう、「人づくり、まちづくり」に向けた事業展開を行い、近隣の自治体とも協議の場を設け連携を強化する。</p> <p>○「後三年合戦」の歴史を地元住民に知ってもらい、市民が誇りを持って観光客と交流できるような活動に重点を置く。</p>		

【3】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	観光・交流	相談主体	・クニマス物語制作準備会 ・秋田県仙北市
派遣伝道師	渡邊 賢一	ブロック名	東北圏ブロック
相談内容	○クニマスを活用した市内の各地域を巻き込んだ地域づくりについて		
相談への対応内容	<p>○平成24年10月24日(1日目) 渡邊伝道師による講演会(対象:秋田県中小企業家同友会仙北地区) 《テーマ》「地域の魅力を再確認、外に売り出す”モノ”づくりに挑戦しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クールジャパン事業等の紹介 ・秋田県仙北市の実力について(検索結果から見る魅力) ・クニマスはなぜ注目されたか。 ・富士河口湖町との連携について、民間事業者等を対象に講演を行い、地域の魅力、クニマスというコンテンツの重要性について再認識いただいた。 <p>○平成24年10月25日(2日目) 渡邊伝道師による指導・意見交換(仙北市教育委員会、クニマス物語制作準備会への指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市、民間、教育、市民という要素で考えその中にクニマスプロジェクトを入れるイメージを作る。 ・教育×観光業の活性化という内容でプロジェクトを立ち上げ、市が宣言を行う方法の提案。 ・歴史(文化)、社会(経済)、環境(生物)を軸に教材等を整備し、観光につなげていく方法を提案した。 		
成果	○民間レベルでクニマス物語制作準備会議が発足し、ソフト事業を進める体制が整備された。		
課題	<p>○文化面の後押しや時間、費用の問題</p> <p>○国、県等を巻き込んだ取り組みの為の方法の更なる検討</p>		
今後の方針	<p>○民間をベースとした活動を中心に本活動を進めて行くこととし、NPOもしくは公益組織を立ち上げ活動を広げる事を図る。</p> <p>○市においては、ナショナルトラストセンター(仮称)の整備等ハード面について引き続き検討を行っていく。</p>		

【4】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	観光・交流	相談主体	山形県新庄市(商工観光課)
派遣伝道師	渡邊 賢一	ブロック名	東北圏ブロック
相談内容	<p>○マンガ・アニメとゆかりの深い新庄市の特性を活かした取組を進め、文化施策の主要な柱に位置付けることにより、マンガ・アニメ文化の一層の振興により市の魅力を高めるとともに、年間を通じて国内外から観光客を呼び込み、多様な交流を図ることで地域の賑わいや活力を生み出していきたいと考えている。</p> <p>そこで、クールジャパン活動など、グローバルな視野で見識の高い渡邊賢一伝道師から、現地を視察いただき、ソフト・ハードの両面から新庄市の取組について助言を得たい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年2月12日(火) 意見交換会 出席者:最上広域市町村圏事務組合、新庄市商工観光課 (相談内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成11年12月から最上8市町村で、新庄駅前、「ゆめりあ」を運営・管理しているが経済情勢が厳しい等のため利用者は年々減少している。 ・収益事業の実施が条例で規制されているが、条例改正を検討し、利用者拡大に向けて様々な活用をしていきたい。 ・「ゆめりあ」内の「もがみ体験館」の稼働率が落ちていることから、新庄市ゆかりのマンガ・アニメをテーマとした世界を疑似体験できる様な施設として改装することを検討している。 <p>(渡邊伝道師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漫画家の方の世界観を味わうことを目的に来た観光客を、「ゆめりあ」で終わりにしないで、どのようにして地域に分散させて新庄を楽しんでもらうかが重要。 ・目的は地域の活性化。「ゆめりあ」の次のプランをどうするか、この地域の観光資源を活かして考える必要。 <p>○平成25年2月13日(水) 意見交換会 出席者:新庄市、山形県最上総合支庁、新庄信用金庫 (相談内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガ・アニメの記念館を中心とした地域活性化の構想について。 <p>(渡邊伝道師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本件は、JRのデスティネーションキャンペーン、市の支援強化など、風も吹き、需要のあるプロジェクト。記念館に来た観光客に参加型イベント等で楽しんでもらうなどパッケージで考えた方がよい。 ・外国では日本のアニメの人気の高い。その理由は、多種多様な価値観が共存していること、メッセージ性があることにある。日本のアニメを活用して国内外から人を呼ぶ戦略を立てられる。 ・アニメのまちづくりで成功しているのは、例えば川崎市の藤子Fミュージアム。マンホールのふたにもドラえもんを使うほど身近。新庄市についてもアプローチ方法が重要で、どんなことをやりたいのかを示して、共感が得られるようにするのが大事。入り口がうまくいけば、何をやるかについてそんなに問題になることはない。 <p>(渡邊伝道師のアドバイスのまとめ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. このプロジェクトを進めるためのプロジェクトチーム(新庄市クールジャパン室)をつくってはどうか。 2. 参加型ツーリズムは前向きに進めるべき。マンガ・アニメの世界を疑似体験できる企画はファンが顕在化する。また、新庄だけでツアーを組むのが難しければ、近隣の平泉等とセットするなど工夫も必要。 3. 市、県、信金、JRが協力連携しており、このプロジェクトにブレーキはない。関係者でしっかり調整していく必要。 		
成果	○本プロジェクト推進の中核として、平成25年4月に新庄市にクールジャパン新庄推進室が設置され、具現化に着手することになった。		
課題	○関係者の連携強化を通じた、マンガ・アニメ記念館の整備をはじめとした各種構想の具体化。		
今後の方針	○相談者から依頼があれば再度伝道師の派遣を検討。		

【5】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	観光・交流／農林水産業	相談主体	櫛引地域産業振興プロジェクト推進協議会(山形県鶴岡市)
派遣伝道師	金丸 弘美	ブロック名	東北圏ブロック
相談内容	<p>○鶴岡市はユネスコの食文化都市の登録を目指している。同市櫛引地域では農業と観光の連携事業を行う推進協議会を設置しており、食による地域づくりを提唱している伝道師から、6次産業化等今後の経営展開について、先進事例の紹介を含め識見豊かな考えをお聞きし、農業生産者や観光果樹園、産直施設関係者の意欲喚起につなげ、農業と観光の振興を通じた地域の活性化に資するようになりたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年3月7日(木) 全体相談会 参加者: 鶴岡市、生産者、産直関係者等(約70名) (金丸伝道師講演内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化は、加工施設や農産物直売所をつくることから入るのではない。 ・まず地域の食材について、歴史風土、品種、生産量、栽培方法、出荷窓口、食べ方などを調べテキスト化(データベース化)する。農産物についてこのような知識がなければ売り込むことはできない。 ・次に、地域の食材を活かしてどのような料理ができるかを、女性が参加して、ワークショップを行いオリジナルメニューや新商品を開発する。高知県はこの取組に補助金(講師謝金等)を出している。 ・開発した商品が売れるかは、食材の良さもそうだが、商品のデザイン、生産者の顔が見えるPRが重要。 ・観光果樹園ももぎ取り体験だけでなく、果樹を使ったスイーツやジュースを作り、園地で販売すれば相乗効果で入園者も増える。 ・産直ならではの他所では真似の出来ないことをするべき。スーパーにはないものが売れる。 ・売れている産直は、料理教室など体験型のイベントを行っている所が多い。商品との相乗効果が出ている。 ・産直で実際に売られている商品を把握し、それを生産者につくってもらうようリクエストしてはどうか。そうやって生産者の所得が上がるのが後継者対策にもつながる。 <p>○平成25年3月8日(金) 個別相談・指導 (鶴岡市同行) <相談者: 産直あさひ・グー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・店内の指導 ・商品には生産者の名前、商品のストーリーを載せるなど、消費者に生産者の顔が見えるようにするとよい。オリジナル商品がないとスーパーに負ける。 ・地元の食材を活かした手作りの商品が客に安心感を与え、売れることにつながる。 ・売上データをきちんと把握して売れるものを正面に配置したり、売れないものは会員の理解を促して置かない。 ・客にアンケート調査で、どこから来たか、何を買いに来たか、何を商品にほしいか、従業員の接客態度はどうか等を聞き、改善点を見つけている産直もある。 <p><相談者: 産直あぐり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・店内の指導 ・年間の売上のほとんどを6月～11月のさくらんぼ、ぶどう、なし、りんごで稼いでいる。冬の看板商品となる加工品の開発に力を入れるべき。 ・農家レストランはメニューに「農家」の特徴がない。 ・産直らしさ、産直の特徴をもっと分かりやすく表現するべき。 <p><相談者: 西片屋さくらんぼ振興会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もぎ取り体験、直売にとどまらずスイーツやジュース加工、その他の体験などを観光果樹園としても考えるべき。 		
成果	<p>○生産者等に6次産業化は仰々しいものではなく、身近なところから始められるという意識を持たせることができた。相談会ではペースト加工や商品試作の相談が寄せられるなど参加者の意欲喚起につながった。</p>		
課題	<p>○食材のデータベース化、地域の食材を活かした加工品づくりやワークショップ開催等の具現化。</p>		
今後の方針	<p>○相談者から依頼があれば再度伝道師の派遣を検討。</p>		

【6】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	観光／商業振興	相談主体	神奈川県綾瀬市
派遣伝道師	藤崎 慎一	ブロック名	首都圏ブロック
相談内容	○綾瀬市には鉄道駅がなく、市民の購買力が近隣市へ流れている。地域資源を活用した地域の魅力の発信・新商品の開発等を行うことで、地域を活性化したい。		
相談への対応内容	<p>○平成25年1月23日(水) 藤崎伝道師による講演会「地域活性化講演会 まちづくりはひとづくり～ロケとグルメによる地域活性化～」を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元商業関係者や市民活動団体関係者等多くの出席者に対し、これまで藤崎伝道師が地域に入り取り組んだ実例(「富士宮やきそば」、「成田市ロケ誘致」の取組など)を踏まえ、どのような考え方、姿勢で地域活性化に取り組むべきか講演を行った。 ・講演中及び講演後の参加者との質疑応答・意見交換の中で、藤崎伝道師からは今後綾瀬市において取組を行うには、行政のみではなく熱意を持った人たちがチームとなって検討を進めるべきとのアドバイスがあった。 <p>【講演内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SWOT分析により、地域の強みや弱みを洗い出し把握する必要がある。 ・数年後に魅力あふれる、人が集まる街にするために、誰が何をやっていくかを明確にし、役割分担を行うこと。 ・少人数であっても熱意を持って動き出すことが大事である。 ・ロケの誘致も地元グルメの開発も、人を集め地域を活性化する手段の一つである。これらは、市民の方々が楽しんで参加できる取組の一例であり、楽しんで取り組むということが継続性につながる。 ・官民一体となり、おもてなしの精神を持って市外からの来訪者に対して接する必要がある。どうすれば相手が喜んでくれるかを考え、地域全体が熱意を持って動くことが成功の秘訣である。 ・取り組んでいる内容を地域の人たちはもちろんのこと、多くのメディアを幅広く活用してアピールすべき。 ・ロケを誘致することでの効果は、作品が上映されることによる宣伝効果はもちろんのこと、出演俳優陣や監督などが個人的にブログや雑誌等でロケ地の食材、観光場所、撮影の思い出等を語ることもあり、さらなる宣伝効果も期待できる。 		
成果	○藤崎伝道師自身が手掛けた実例を紹介することで、参加者がこれからどのような取組をすればよいか、具体的なイメージを持つことができ、今後の取組に対する参加意欲が向上した。		
課題	○今回は大人数に対する講演という形をとったが、今後は熱意を持って取り組む人材を中心とし、行政とともに具体的な議論を進める必要がある。		
今後の方針	○今後、まずは綾瀬市の主導により官民一体となったプロジェクトチームを立ち上げ、複数回のワークショップを開催し、具体的な方向性・スケジュールなどの検討を進める。		

【7】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	観光／交通	相談主体	愛知県
派遣伝道師	藤崎 慎一	ブロック名	北陸圏・中部圏ブロック
相談内容	<p>○名鉄西尾・蒲郡線は乗客数の減少により毎年赤字が続いている。沿線地域の観光客数の減少が鉄道利用者の減少に大きな影響を与えているため、沿線地域の観光を活用した地域活性化を行いたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成24年7月11日(水) 藤崎伝道師講義内容 地元の地名や特色を対外的にアピールするために、地域の強みや弱みを洗い出し把握する必要がある。S WOT分析が有効である。そしてどのような街づくりを行いたいのか、具体的なイメージを持つことが大切である。そのためには、まず数年後に魅力あふれる、人が集まる街にするために、誰が何をやっていくかを明確にし、役割分担を行うこと。</p> <p>【藤崎伝道師が関わった地域活性化の事例を使った説明】 ○地元食材を使用した新たな名産食品をつくることにより話題を提供する。 新たな話題を提供することでメディアに取り上げられるようになり宣伝ができる。岡山県津山市(ホルモンうどん)、新潟県十日町(十日町まんまロール)、千葉県成田市(成田あんぱん)、愛知県豊橋市(カレーうどん)</p> <p>○ロケ誘致を行う。 ロケ誘致を行うことにより、作品が上映されることによる宣伝効果はもちろんのこと、出演俳優陣や監督などが個人的にブログや雑誌等でロケ地の食材、観光場所、撮影の思い出等を語ることもあり、さらなる宣伝効果も期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これらのことは、地元民だけでも行政だけでも単独で行うのではなく、官民一体で行うことが必要。 ・グルメもロケも手段の一つにすぎない。一過性のブームで終わらせるのではなく、10年後、50年後を見据えて継続的に取り組むことが必要である。 ・リピート率97.5%のディズニーランドなどを参考として、どうすれば相手が喜んでくれるかを考え、地元が熱意を持って動くことが成功の秘訣である。 		
成果	<p>○講師自身が手掛けられた取組みの実例をご紹介いただいたことで、現実味が湧き、出席者の熱意が増した。 ○地域活性化を行うにあたり、ロケ誘致とグルメという具体的な方向性を提示してもらえた。</p>		
課題	<p>○ロケ誘致とグルメをきっかけに地域活性化を行うにあたり、新たな名産食品として何を売り出していくのか、ロケ誘致を行うにあたり、地元のどの部分をPRしていくか。</p>		
今後の方針	<p>○講演会終了後、蒲郡商工会議所青年部が中心となったワークショップを開催し、ロケ誘致担当、グルメ担当のグループ分けを行った。担当グループごとに企画を進め、9月に会議を開催し、それぞれのグループで事業を進めていくこととした。</p>		

【8】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	農林水産業	相談主体	滋賀県東近江市
派遣伝道師	春日 隆司	ブロック名	近畿圏ブロック
相談内容	<p>○滋賀県東近江市では、これまで低炭素だけでなく、地産地消や分散自立をキーワードとしたまちづくりを市民とともに進めている。それらのキーワードは、環境未来都市に通じるものであり、地域資源を活かした更なる取り組みの展開が求められるところである。</p> <p>北海道上川郡下川町では、地域の資源である森林を活用したまちづくりについて先進的な取り組みが実践されており、東近江市において今後の取り組みの参考とするため、地域活性化伝道師として春日氏の派遣を依頼するものである。</p>		
相談への対応内容	<p>○相談主体である東近江市は、広大な森林の面積を有し、この森林資源の活用を検討しており、次のような課題を解決することでさらなる森林資源の活用が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な森林資源を有効利用するためのチップボイラーの燃料となる木質バイオマスの需要が少ない。 ・J-VER制度への登録にあたっては登録料が必要であるが、単独の自治体での登録よりも、広範囲な自治体で共同登録すれば、コストを削減できる。しかし利害関係の調整方法が確立できていない。 ・森林を活用した企業研修の場を設けようと考えているが、どういったプログラムであれば多くの企業に森林を活用した研修を実施してもらい、森林への関心を高められるか見当がつかない。 <p>○以上の課題を解決するため、当事務局のコンサルティングに加えて、先進地の取り組み状況について、実務的な経験を有する者の指導の必要性が相談自治体と当事務局で共有され、森林によるまちづくりを推進する北海道下川町において、環境未来都市推進本部長として実務に携わる春日隆司氏の派遣を決定した。</p> <p>○平成24年10月29日午後2時より、『湖東の森林づくり自治体協会』として、日本大学法科大学院客員教授である小林紀之氏の事例発表の後、地域活性化伝道師の事例発表が行われた。東近江市と同様、豊富な森林資源を有する下川町において、他町との連携による森林バイオマスの価値化、パートナー企業との連携を積極的に行い、収益を上げた経過を発表。その後の質疑では、出席者からクレジット制度の詳細や、建築における地域材利用の質問に対し回答を行った。</p>		
成果	<p>○伝道師から、下川町での取組み事例や森林ビジネス推進における留意点を説明いただくとともに、J-VER制度等の活用に向けた助言を行うことができた。</p> <p>なお、東近江市としては、今後も会合を継続し、森林を有する近隣自治体と方向性を検討していく。</p>		
課題	<p>○今回の伝道師派遣では、主に環境省のJ-VER制度の実際の活用経過を発表し、制度の利活用の実例については相談者とも共有できたが、今後どのように森林を活用していくかの答えはまだ出ていない。</p> <p>今後は、当事務局で所管する制度の活用(環境未来都市等)の可能性も含め、方向性を検討していく必要がある。</p>		
今後の方針	<p>○相談者においては、J-VER制度等、森林クレジット制度を主軸に豊富な森林資源を活用していくのか、その他の制度を活用するのか方向性を定める。事業の熟度が高まり再度伝道師による情報提供が必要な場合は、再派遣を検討する。</p>		

【9】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	農林水産業	相談主体	島根県隠岐の島町
派遣伝道師	中澤 さかな	ブロック名	中国圏ブロック
相談内容	<p>○隠岐の島町は島根県の沖合に浮かぶ隠岐諸島のひとつで、離島という不利な条件から、少子高齢化や産業の衰退への対応が喫緊の課題となっている。</p> <p>そうした中、地元の食産グループでは、豊富な水産資源を活かして、海産物を活用した特産品開発(サザエ混ぜご飯弁当・冷凍)を行った。島外への販路拡大を目指し、手を尽くすものの、離島であるハンデ等がネックとなり捗々しい成果は得られていないのが現状。</p> <p>このため、道の駅で駅長を務め、特産品の販路拡大等に知見のある地域活性化伝道師のアドバイスを頂きたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成24年7月10日、中澤伝道師より以下の助言を行った。</p> <p>○商品について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご飯が見えないほどのサザエの量は視覚的にインパクトが大きい。そのため、副食は不要。 ・売る場所にもよるが、弁当単価800円では売れない。萩一まと(中澤伝道師が駅長を務める道の駅)では、同様の商品をサザエの量は半分で350円で提供。東京のスーパーで売るとなれば500円が値ごろ感。 <p>○販路について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍の場合、デパートでは常時置かない。 ・アンテナショップや道の駅では冷凍ケースにおいてもらえるかもしれない。 ・通信販売は、食品の販売には向かない。 <p>○商品開発について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍は販路等の面で制約が多い。 ・具だけをレトルトにして販売の方が良い。他の商品への波及など商品の可能性が広がり、かつ、扱いやすいので売り手側のハードルも下がる。 ・類似商品への新規参入は難しい。今全国にない、新しいものを開発することが重要。 ・現在はダウンサイジングの流れ。容量を5～6割程度にして、港などで出来立てを提供してはどうか。 		
成果	<p>○商品の販路や商品そのものについて、実際に道の駅を運営する立場からの具体的な知識を得ることができ、今後の取組の指針とすることができた。○商品の販路や商品そのものについて、実際に道の駅を運営する立場からの具体的な知識を得ることができ、今後の取組の指針とすることができた。</p>		
課題	<p>○商品自体が、冷凍という制約の多い方法を選択しており、今後はレトルト等新たな商品の開発も視野に入れた見直しを行っていく必要がある。</p> <p>○販路については、商品の性質にあった販売先を模索していく必要がある。</p>		
今後の方針	<p>○隠岐の島町及び地元食産グループの活動内容の把握に努め、地域活性化伝道師の派遣も含め、必要に応じた助言・支援等を行っていく。</p>		

【10】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	観光／まちづくり	相談主体	岡山県美作県民局
派遣伝道師	北野 尚人	ブロック名	中国圏ブロック
相談内容	<p>○県(当県民局)が、同地域への交流・移住促進を底上げするため、</p> <p>① どの層やエリアをターゲットとして</p> <p>② どのような取り組みを行っていけばよいか</p> <p>③ 特に情報発信に関して、人的ネットワークを活用した狭くて濃い情報発信と、メディアなど薄く広い情報発信の重点の置き方</p> <p>・自然との境界線で高齢化が進む集落への支援のあり方など、根本的な部分の考え方を教えてほしい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成24年10月22日(月) 地域活性化応援会(倉敷会場)の個別相談会 北野伝道師から、以下のとおり助言。</p> <p>・「違い」を大事にすべき。地元の有名を他の地域においていかに有名にするのか。新聞等でとりあげられるには、“プラスアルファ”が必要で、ニュースバリューのあるネタを提供しなければならない。</p> <p>・移住者に移住した動機を聞いて、伝えていく。講演でも話したが、toConsumerではなく、withConsumer。</p> <p>・農業体験やお宝発見は色んなところで行われている。いかに違いを出すのか。自慢できるかどうかが鍵。レアであること、そして大変であること。選択肢を作って選ばせるのもよい。「ブランド体験」にする。</p> <p>・メディアの使い方について。SNSは自分から情報を取りに行っているのだからスルーされない。1万人を対象とするとなるとマスメディアが必要だが、100～200人ならSNSで十分。フェイスブックはおすすめ。</p> <p>・人口が減る中でコミュニティはどうあるべきか、という問いに対しては、考え方としては、4つの「交わる」はヒントにはなるかもしれない。①交齢化(年齢をこえる)②交性化(性別をこえる。女性の働き口をどうするかという問題)③交域化④交時化(例えば、同窓会をエリアでやってみる等)</p> <p>・どんな幸せを与えられるのかというのが重要。</p>		
成果	<p>○伝道師から何を大切にすべきか、事例を踏まえたアドバイスを実施。相談者が今後、支援を行う上でのヒントを得ることができた。</p>		
課題	<p>○いかに他の地域との違いを出していくか。</p>		
今後の方針	<p>○地域から要請があった場合は、コンサルティングの実施や伝道師の派遣の検討を行う。</p>		

【11】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	農林水産業	相談主体	島根県西部農林センター益田事務所
派遣伝道師	米田 雅子	ブロック名	中国圏ブロック
相談内容	<p>○高津川流域の森林資源を活用し、流域における林業サプライチェーンの構築を目指しており、現在民間事業者・行政で検討を始めたところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合、民間事業者が連携して地域の森林資源を循環的に活用していく仕組み作りが進んでいる事例があればご教示いただきたい。 ・高津川流域版の林業ビジネスモデルを目指して行くに当たって、ご意見を伺いたい。 ・この流域の素材生産事業者は小規模経営が多いが、木材生産量を短期間(3～5年)で増加させていくためのアドバイスをいただきたい。 		
相談への対応内容	<p>○平成24年10月29日 地域活性化応援会(益田会場)の個別相談会</p> <p>米田伝道師から、自身の実践に基づき、以下のような具体的な工夫やアイデアを助言。</p> <p>【助言の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州で自身が携わっている事業を紹介。地域の林産企業企業の立地状況から、製紙パルプでの資源活用を提案。 ・木質バイオマス資源としての活用については、熱利用を提案。コジェネについては、栽培ハウス等の立地を踏まえて検討すべき。 ・木材を搬出するための作業路については、異種の道(砂防、通信等の目的で敷設されている道)の活用を提案。 		
成果	<p>○米田伝道師からの紹介により木材資源の需要先の可能性が広がり、林業ビジネスモデルの構築のための助言を行うことができた。</p> <p>○異種の道の活用等、既存の設備の有効活用による供給体制の強化につながる助言を行うことができた。</p>		
課題	<p>○小規模な事業者が多い中で、計画的な木材伐採を図っていくこと。</p>		
今後の方針	<p>○当該地域は地域活性化総合特区に指定されており、農林水産業分野について適宜フォローしていく。</p>		

【12】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	地域産業・イノベーション・農商工連携 ／観光・交流	相談主体	広島県福山市
派遣伝道師	井手 修身	ブロック名	中国圏ブロック
相談内容	<p>○平成28年に迎える市制100周年を迎える福山市では、現在、「都市ブランド力」の向上を目指しており、市花の「バラ」や地元の特産である「鯛」等のほか、地域の伝統食文化である「うずみ料理」により、市の新たな魅力の創出や発信を目指している。</p> <p>同市においては、うずみ料理の市民への浸透や市外へのアピール(観光客誘致等)等の為、食材の生産者、飲食店、観光業者、市民、教育機関、行政等相互間の連携・協力が重視されており、平成22年に「福山食ブランド創出市民会議」が設立されたところ。</p> <p>こうした状況の中、今回の伝道師派遣においては、うずみ料理を市内外へアピールし観光客を誘致することに主眼を置き、観光分野の専門家である伝道師から助言を受けた。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年2月20日(水)「福山食ブランド創出市民会議」の場において、井手伝道師によるワークショップを実施した。伝道師からは以下のような説明・アドバイス等があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した地域振興について、激化する地域間競争の中で成功を収めるためには、ごく数人の「熱い」人材の他、それを支える周辺の人々が必要。 ・また、マーケティングの基本として、Market in(顧客思考)／Product out(生産者主導)のほか、4P(Product 製品・商品、Price価格、Place場所・流通、Promotion販売促進)等について、説明があった。 ・複数の飲食店が共同でイベントを実施し成功を収めている先行事例として、伝道師が参画している「バルウォーク福岡」のスキームが紹介された。 ・但し、このスキーム(対象飲食店(90店程度)で共通利用が可能な、3,500円のチケット(700円×5枚綴り)を販売)をそのまま転用すれば必ず上手くいくとは限らない。(例えば「バルウォーク福岡」の場合、店舗すべてについて事務局が足を運び、イベントの基本的なコンセプトに合致するかを見極める、等の方法により、一定の線引きが行われている、とのこと。) ・「選択と集中」という観点から見た場合、うずみの現状は、食材が多様多様に渡るほか、うずみを扱う店舗の全てが観光案内用の地図に記載されている等、コンセプトが伝わりづらい。このため、新たに観光客等呼び込むのであれば、食材を一つに絞る等してはどうか、とのサジェスションがあった。 ・うずみ料理に取り組む目標の再確認と方針の明確化を行うため、ブレインストーミングとして、参加者(市民会議メンバー)が、長所(strong)／短所(weak)を自由に発言することとなった。参加者からは、うずみに関する「味や食材(魚、肉、卵、野菜、そば等)」「店」「値段」「知名度」をはじめ、「文化の伝承」等、様々な分野について、長所／短所とも、多数の意見が出た。 		
成果	<p>○平成22年度は北野尚人伝道師を派遣し、平成23年度には本田勝之介伝道師を派遣しているなど、当事務局もこれまで継続的に支援してきたところであるが、この他にも地域の自主的な取り組みとして「福山食ブランド創出市民会議」が、設立以降約3年で既に20回以上開催されているなど、食ブランド化に向けた取組が、着実に継続的に進められていると考えられる。</p>		
課題	<p>○市民会議の各メンバーが、うずみ料理を通じて目指す目標(方向性)を様々に持っている(例:観光客誘致、伝統文化の伝承、地域経済の活性化)ことが、今回のワークショップにおいて明らかになった。今後は、これらの目標を今後も維持しつつ、一方で、今回のテーマでもある、観光面や地域経済への貢献に資するという目的からのアプローチも必要になると思われる。</p> <p>○市民会議により様々な分野の関係者間の連携を維持しつつ、一方で、うずみ料理を全国に広めるための突破口とすべく、単に「うずみ料理」として広めるのではなく、更に的を絞った売り出し方も検討の余地があると思われる。</p>		
今後の方針	<p>○今後は、地域において、「うずみ料理」により目指す目標(例:観光客誘致、伝統文化の伝承、地域経済の活性化)をあらためて明確化した上で、市制100周年を見据え、都市ブランド化に向けた取組を、自主的にかつ着実に進めていく。</p>		

【13】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	農林水産業／観光	相談主体	熊本県阿蘇市
派遣伝道師	米田 雅子	ブロック名	九州圏・沖縄県ブロック
相談内容	<p>○現在阿蘇では「千年の草原を活用した阿蘇地域活性化総合戦略」を平成25年3月までを目途に策定中であり、草原活用の業態およびその仕組みづくりについて、阿蘇の地場産業である従来の畜産、農業、林業、観光といった面からの検討に加え、新たな視点に立ったアイデアの創出を求め、総合戦略に反映するために、平成25年2月に開催予定の阿蘇草原再生協議会の開催に合わせて、阿蘇草原再生協議会メンバーや地元関係者を対象とした講演会と意見交換の場において、また、阿蘇草原再生協議会幹事会で「千年の草原を活用した阿蘇地域活性化総合戦略」について検討する際に助言をもらいたい。</p>		
相談への対応内容	<p>○平成25年2月27日(水) ・米田伝道師による講演会及び意見交換(10:00～12:30)を行った。 (第1部:講演) 「地域から規制改革の声をあげよう 農商工連携と林建協働」 1複業のすすめ 2農商工連携の可能性 ③建設帰農がうむ新しい農業ビジネス ④林建協働と次世代林業システム ⑤地域から規制改革の声をあげよう ⑥既成の枠を越えた発想をしよう (第2部:意見交換) 草原活用の業態およびその仕組みづくりについて、阿蘇草原再生協議会メンバーや地元関係者との意見交換を行った。米田伝道師から、イノベティブな草原を活用した事業を生み出したり、阿蘇に来て歴史・物語を感じられるような体験等魅力あるもの、もう一度来たくなるようなことへの取り組みの重要性や、規制緩和に関して、農振法の手続き緩和については様々な地域ニーズがあり全国的にも波及効果があること、野焼きに係る樹木除去要望は単なる除去でなく利用するとの視点が重要などとの助言がなされた。 ・阿蘇草原再生協議会幹事会(13:30～)において、米田伝道師より、幹事会で議題となった阿蘇の草原に係る活性化総合戦略の様々な取組みの位置付け及びそれぞれの内容について、あるいは規制緩和の課題等について、助言が行われた。</p>		
成果	<p>○講演及び意見交換による今後の方向性の検討とともに、阿蘇地域の实情に合わなくなった国の規制に対して、これまで内閣府規制改革会議委員等を歴任してきた米田伝道師より、これまでの事例と併せ地域の实情を踏まえた助言が行われた。</p>		
課題	<p>○阿蘇草原再生に関する今後の取組について、協議会や地元関係者等がどのような体制で、いかなる取組みを行っていくのか等、現状や今回の内容を踏まえさらなる検討が必要。</p>		
今後の方針	<p>○地域からの要請に応じて、今後もコンサルティングや地域活性化伝道師の派遣等による支援を行っていく。</p>		